



7月のタイ景気は回復基調を維持

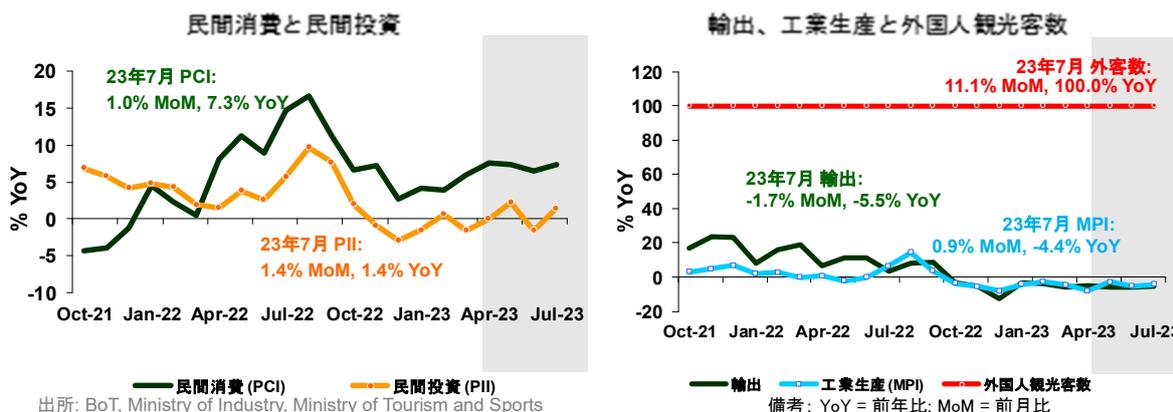
要点

- 2023年7月のタイ経済は引き続き回復基調になりました。輸出停滞の要因で製造業の生産を下押ししています。一方で、民間消費、観光業、および民間投資が改善しています。
- 2023年8月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比0.88%上昇し、前月と比べほぼ横ばいでした。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.79%増で、前月からやや減速しました。
- カシコリサーチセンターは、2023年のタイ建材小売業の販売額が前年比1.8%増の1.07兆バーツになる見込みで、成長の兆候はまだ限定的です。建材小売市場の伸びを妨げる主な要因としては、エルニーニョ現象の影響で農家の収入が減少し消費者の購買力が低下していること、鉄鋼価格の下落、中小の建材販売店の減少などが挙げられます。
- また、中小の建材販売店は、モダントレードとの競争激化により、価格競争に直面し苦戦しています。これにより、中小企業の収益性が低下し、長期的には競争力を失う可能性があります。

タイ経済の動向

□ 2023年7月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2023年7月の重要な経済指標によると、タイ経済は引き続き回復しています。民間消費、観光業、および民間投資が改善しています。しかし、輸出が引き続き収縮したことにより、製造業の生産を下押ししています。

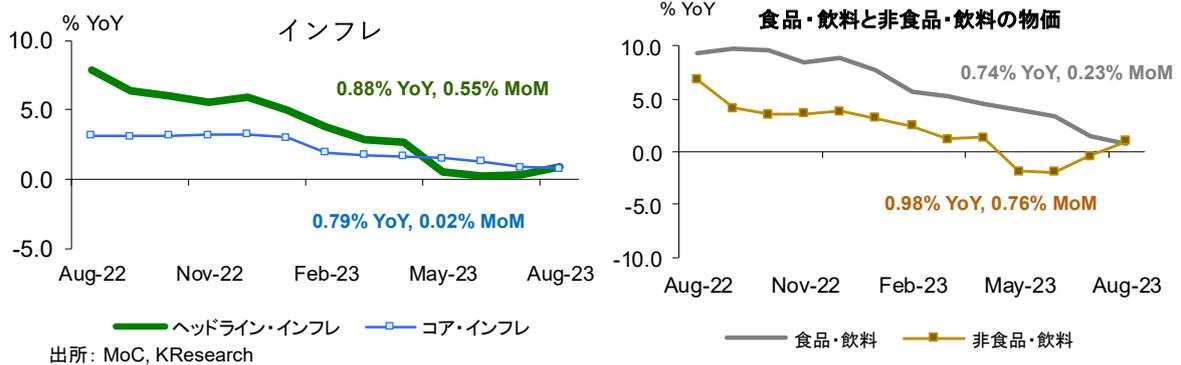


7月の民間消費は前年同月比7.3%増となり、前月に引き続き拡大しています。サービスが17.8%増と全体をけん引しました。このほか、耐久消費財は2.9%、非耐久消費財が2.0%の拡大でした。しかし、半耐久消費財が0.2%増、ほぼ横ばいとなりました。

一方で民間投資は、前年同月比1.4%増加しました。商用車の販売が10.5%減となりましたが、機械・設備を中心とした資本財の輸入が10.1%増でした。また、建材の販売が2.9%増でした。

7月の輸出は、前年同月比5.5%減の220億米ドルとなりました。輸出は主な仕向け地で需要が停滞していることから、悪化が続いています。また、中国向けのドリアンは収穫シーズンが終わりを迎えたことにより、不調でした。

工業生産に関しては、前年同月比4.4%縮小しました。輸出の落ち込みが製造業の業績を下押ししています。一方で、タイを訪れる外国人の増加で、観光業を中心にサービス業と消費が活発になっています。



商務省が発表した2023年8月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比0.88%上昇し、前月と比べほぼ横ばいでした。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.79%増で、前月からやや減速しました。

食品・飲料部門は0.74%上昇しました。このうち、「卵・乳製品」は8.47%で最も上昇したほか、「果物・野菜」は5.90%、「非アルコール」は3.96%それぞれ上昇しました。しかし、「肉・魚」は6.06%、「調味料」は2.26%それぞれ下落しました。一方で、非食品部門は0.98%上昇しました。

2023年のタイ建材小売市場は1.8%増の見込み

カシコンリサーチセンターは、2023年のタイ建材小売業の販売額が前年比1.8%増の1.07兆バーツになる見込みで、成長の兆候はまだ限定的です。建材小売市場の伸びを妨げる主な要因としては、エルニーニョ現象の影響で農家の収入が減少し消費者の購買力が低下していること、鉄鋼価格の下落、中小の建材販売店の減少などが挙げられます。

また、中小の建材販売店は、モダントレードとの競争激化により、価格競争に直面し苦戦しています。これにより中小企業の収益性が低下し、長期的には競争力を失う可能性があります。

生き残り戦力については、経営コストの削減、新技術の導入、環境保全活動への取り組みなど多様な努力が必要となります。

監修：カシコンリサーチセンター

本資料は情報提供を唯一の目的としており、ビジネスの判断材料とするものではありません。掲載されている分析・予測等は、資料制作時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、予測の妥当性や正確性が保証されるものでもありませんし、商業ないし何らかの行動の為に採用することから発生した損害の責任を取れるものでもありません。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自でご判断ください。